

貝塚の有名人といえば

# 中川貴志 さんです

ふちんかん

貝塚の有名人といえば、東洋の魔女といわれた日紡貝塚の女子バレーボールチームのみなさんが何といてもピカイチだが、他にも阪神タイガースのエースだった湯舟投手、ヤクルトスワローズの川端選手などがいる。他にも宝塚市の市長である中川智子さんも貝塚で育った。そしてもう1人、こちらの中川さんなのだが、「よしもと新喜劇」で有名な芸人の『中川貴志』さんを紹介しよう。

ここ数年、「よしもと新喜劇」を毎週欠かさず見ている。そのなかでもっとも私が好きな芸人がこの中川さんだ。

基本は白髪のカツラをかぶり、片杖をついたおじいさん役として登場することが多い。持ちネタとしては、聞き取りにくい話し方をしたあと、「おじいさん普通に喋れませんか？」と尋ねられると「喋れるよ！」とはっきり答え、周囲がコケる。他には突然苦しみだして、錠剤を飲んで元に戻り、「何を飲んだんですか？」に対して「フリスクや」と答え周囲がコケる、というもの。

しかし何といても『呼んだら来る』といわれる長いときは5分ほどにもなる清水けんじさんとのカラミが最高に面白い。

清水の妻や親戚など大切な人が、強盗に人質として取られたとか、病気で苦しんでいるなど切迫した事態で、中川が「わしが呼んでくるわ」といって退場しようとするのだが、すぐに戻ってくる。どうでも良いことやさっき言ったことを繰り返してなかなか呼びに行こうとしない。いらつく清水がキレると、今度はキレた清水に「何で叩くんや！」「それはアカンやろ」などと逆ギレする。どんどん時間が経っていき最後は清水が半泣きになって頼むから行ってくれと懇願するが、「このセーター気に入ってるのに引っぱったら元に戻らんやんか」「先端恐怖症やのに何で突くんよ」「なんで左ばかり叩くんよ」…等々、清水のリアクションを逆手にとって、どうでも良いことを蒸し返してなかなか呼びに行かず、また清水がキレるというくり返し…。新喜劇によくある体型や容姿を指して取る笑いではないところも良い。写真のように白衣を着ていることが多く、体型も私に似ているので物まねに使わせてもらっている。なかなか味のある芸人さんなのだ。

